



と保護者の意識にズレがあるケースも報告され、子どもにとつてふさわしい教育を保障することを第一に考えていく大切さが確認されました。

東京支部の松元厳さんから「東京都特別支援教育推進計画第三次計画案」について報告。各地からも「予算がない」と教育にお金をかけないリストラ計画が進められている実態が話されました。

●若者へのはたらきかけ

支部活動の交流では「支部事務局員の半数が60歳以上」「新規会員の数より定年退職

をむかえる会員の数が多い」「若い人にはたらきかけようと学習会を企画したが参加者は中堅・ベテランだった」など世代交代の課題が出されました。またあわせて、全障研

アラウンド GOGO 55



試練はつづくよ いつまでも

鷺見俊雄

しんぶんや支部ニュースの発送作業を、二人、あるいは一人だけで行っている状況も出されました。

そのような困難さもありながら「支部事務局で合宿を

行った」「放課後問題の取り組みを通して学童保育の若い指導員とのつながりはある」「会員限定の発達ゼミを行い、若い会員が6名増えた」「2年後に支部結成40周年記念企

画として若手中心に青年期教育集会を行う」など元氣な活動報告もされました。

今回は、2011年2月に集まります。

(全国事務局 圓尾博之)

実はこの原稿の一度目の依頼を受けたのは昨年でした。僕は50になっていなかったので、年齢詐称がばれると怖いので丁重にお断りした経緯がありました、そして今回、高い原稿料？に目がくらみ、お受けすることにしました。

今回は、最近遭遇してしまつたことをチョットだけ紹介します。

それは、今年6月に京都北部で開催された青年期集会の時のことです。仙台から飛行機で大阪まで行き、大阪駅から特急の電車に乗るつもりで駅員さんをお願いしにいったところ、「車両が古く乗車口が狭いため電動車椅子は乗れません。どうしますか？」というお言葉が返ってきたので「物理的に不可能であれ

ば仕方ありません。目的地まで行ける方法を考えてください」とお願いしました。

1時間以上待たされ、各駅止まりの電車を乗り継ぎ、5時間以上かかり到着したのは夜の7時ちょうど。交流会が始まつたころでした。

＊

着いてホッとしたのも束の間。第2幕が待っていました。交流会が終わりホテルにチェックインしようとした時に、支配人らしき人から「車椅子の方は何かあったら大変なので誰かと同室でない」と困

(全障研宮城支部長)

全障研と僕の出会いは、当時施設で暮らしていた中学1年のころです。何を血迷ったのか、月1500円のこずかいの中から一部90円の「みんなのねがい」の購読者になって、40年あまりの時があつという間に駆け抜けてしまいました

※「アラウンド55(ゴーゴー)」は、50代の会員によるエッセイコーナーです。

鷺見さん、昨年の依頼は失礼しました！